



平成十九年寄進の大
鳥居。上は本殿、奥
に五輪石が見える



石段を登ると1対の唐獅子が迎える、拝殿から本殿を望む

山根の大歳神社

祭神 三宝荒神・黄歳神の二神

祭日 四月二十日 春祭 十一月二十三日 秋客祭

下市の旧道を下がると、山根集落東端の山裾に真新しい鳥居が建ち、急な石段の上に昭和九年築の拝殿と神殿が続いている。明治四五年寄進の幟に、三宝荒神大歳大明神とあり、文政二年の書出し帳にある荒神社と黄歳神社とが合祀されていることを示している。▲集落を二班に分けて交互に参道の掃除、整地・幟、供物を整える。春祭りは氏子だけで参拝し、お神酒をいただき茶菓子を食べながら雑談の後解散する。▲秋祭りは野菜や初穂を供えて参列し、神主による神事が終わると一同お神酒をいただき大いに語り賑やかに終わる。各家にお客を呼びご馳走をして楽しんだのは昔話になりつつある。▲境内本殿横に沢山の五輪石が積み重ねられている。神社敷地を整地した際に近くの畑に散らばっていたものを集めたものという。畑の一角に録泉寺という寺があったと言い伝えられており、隣の脊梁に録泉寺古墳群があることを併せ考えると、この谷筋には多くの人たちが住んでいたと推察できる。